

4 / 23 課題 選択 B 日本史 A 予習プリント その4 (1からではないのはワケがある)
3年 番 氏名

○19世紀の世界 (p 36 ←教科書のページ)

18世紀 イギリスで産業革命 →その後フランス・アメリカ・ロシア、遅れてイタリア・ドイツでも産業革命

※産業革命とは：

機械の発明 →機械によって我々の想像を超える大量生産が可能になったこと

↓

大量生産した製品の販売地&原料を得るための土地として、アジアやアフリカに進出

ex アヘン戦争 (1840) by イギリス

中国 (清) にイギリスが進出、やがて武力でねじ伏せ支配=植民地化 →フランス、アメリカも進出

↓

次のターゲットは日本

問 なぜアメリカやヨーロッパの国々がこの時期にアジアや日本にやってきたのだろうか。

○ペリー艦隊の来航 (p 36)

江戸幕府は1639年以来200年以上にわたって外国との交易をしない政策= () を続けてきた。

1853年 ()、軍艦2隻で日本に来航、交易を迫る →幕府は翌年返事をすると約束

1854年 ()、今度は軍艦4隻で再来航、大砲を発射！

↓

幕府ついに屈する。アメリカと交易開始。() 条約を結ぶ。食料や燃料の補給を約束。その後オランダや ()・() と同様の条約を結ぶ=200年以上にわたる () が終わる。

☆アメリカに屈した幕府は大変な危機感を持っていた。当時のリーダーは () (老中首座)。

彼は大規模な改革を行い日本の総力を結集してこの危機を打開しようとした (安政の改革)

→従来の決まり事にとらわれない=A 全国の大名に意見を聞く。天皇にも報告する

cf その1 従来の決まり事

B 幕府の政治に参加できるのは将軍直属のけらい (=旗本) と譜代大名のみ。

cf その2 大名の種類

親藩 …徳川一族の大名。松平・一橋・保科などの名字が多い。

特に有名なのが、将軍も出る家柄である紀伊藩・() 藩・尾張藩。まとめて () とよぶ。

譜代大名 …昔から徳川氏に忠誠をしめしてきた大名。

外様大名 … () の戦い以降、しかたなく徳川氏に従うようになった大名。

() 氏 (薩摩藩) 等が有名。

↓

c 幕府内部で、保守派と改革派の争いが始まる → 14代将軍後継者争いをきっかけに対立が表面化。

徳川慶福 (←保守派が支持)

VS

一橋慶喜 (←改革派が支持)

問1 下線 A について。それまで忘れられていた (!) 天皇の地位はどのように見直されたのだろうか。

問2 下線 B および C について。ここでおもしろくないのは譜代大名=保守派である。譜代大名はなぜ改革をじゃましてしようとするのだろうか、理由を書きなさい。

4 / 2 3 課題 選択 B 日本史 A 予習プリント その5

3年 番 氏名

○通商条約の締結 (p 37)

アメリカ総領事 () は貿易を要求し、断るとひどいことになるかと脅迫してくる!

周囲はみんな大反対、だけどアメリカはこわい。堀田正睦(老中)はどうしていいかわからなくなった(こういうのを優柔不断というね) →天皇に頼って貿易の許可をもらおうとするが、天皇は外国大嫌い。貿易反対! →堀田失脚

↓

() が大老に就任、天皇の許可がないまま貿易を強行=日米修好通商条約調印(1858)

→ オランダ・ロシア・イギリス・フランスとも同様の条約を調印(安政の5カ国条約)

(内容)

1. 箱館に加え、神奈川(実際は横浜)・長崎・新潟・兵庫(実際は神戸)の5港を開く
2. 開港場には外国人居留地を設ける
3. 自由貿易とする
4. 領事裁判権(治外法権)を認める
5. 協定関税=関税自主権がない

問1 領事裁判権(治外法権)とは、どのような権利だろうか。

問2 (1) 関税とは何ですか。()

(2) 関税をかける主な目的は何ですか。()

(3) 関税自主権とはどのような権利だろうか。()

(4) 関税自主権がないとなぜこまるのだろうか。

☆日本にとって不平等であり、植民地型の条約といえることができる。

(欧米諸国が植民地化する手段)

産業革命によって大量生産した製品を相手国に高く売り込み、相手国から原料を安く買う

↓

貿易が進むにつれて、相手国の赤字がかさみ、相手国はやがて貿易を続けられなくなる

↓

相手国にお金を貸し、借金漬けにする。やがて借金を返せなくなると、相手国を自由に支配できるようになる

相手国が貿易をやめようとした場合 →武力で脅し、いうことを聞かせる

※植民地化の過程と、日米修好通商条約の内容を照らし合わせてみよう。

1. 主要な港をすべてオープンさせ、外国が日本中に大量生産した製品を自由に売りまくれるようにする。
- 2と3. 「自由貿易」といえば聞こえはいいが、要は貿易が不利になっても日本の意思で断れないということである。
4. 貿易などをめぐってトラブルがあった場合、外国人を日本の法律で裁くことはできない。日本は何もできない。
5. 貿易が日本側に圧倒的に不利になっても、日本はそれを防ぐ手段がなく、自国の産業を育成できない。

問1 日米修好通商条約について。(1) なぜ、外国は日本全国に製品を売り込めるのだろうか。

(2) 貿易が不利になっても、なぜ断れないのだろうか。

(3) 外国人とのトラブルや犯罪等において、日本が何もできないのはなぜだろうか。

(4) 貿易赤字が続いても、日本が何もできないのはなぜだろうか。

問2 この後、日本は外国によって借金漬けにされると予想されるのはなぜだろうか、問1から考えてみよう。

問3 日米修好通商条約は、植民地型の条約とされるのはなぜだろうか、問1と問2から考えてみよう。

4 / 23 課題 選択 B 日本史 A 予習プリント その6 おもて

3年 番 氏名

○開国の影響 (p 38)

日米修好通商条約 (1858) により貿易開始。その結果は？

予想に反し、当初イギリス製品は売れず、日本からイギリスへの輸出が増加 →日本国内で品不足に
→物価が急激に () がる →庶民や下級武士の生活を圧迫

↓

西洋人への反発や不安がつもの & 貿易を断行した幕府への不満・反感

↓

尊皇攘夷運動 (外国人が大きな顔をしているのは幕府がなさないだけ。天皇中心にして外国を撃退すべき) への支持が高まる

問1 外国との貿易が始まると、外国人や幕府への反感が高まった。それはなぜだろうか。

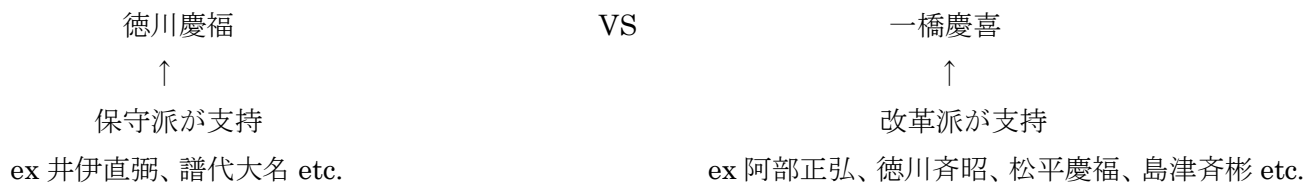
問2 問1の結果、幕府の政治を否定する動きがさかんとなった。幕府に代わって人々期待したのは誰だろうか。

○安政の大獄 (p 38)

幕府が独断で通商条約を結んだことに対する非難・批判が高まる。 そんな折、13代将軍家定が若くして病死

↓

後継者 (14代将軍) をめぐり、保守派と改革派の対立が表面化



1857. 改革派のリーダー阿部正弘が急死

1858. 井伊直弼 (大老) ら保守派が、改革派を徹底弾圧! = ()

(~1859)

↓

改革派の水戸藩浪士らが井伊直弼を暗殺 = () の変 (1860年)

○尊皇攘夷運動の展開 (p 39)

井伊直弼の後をうけた安藤信正 (老中) は、天皇の権威を借りることで幕府の信用を回復しようとした。

= () 天皇の妹、和宮を14代将軍徳川家茂のもとに嫁がせる。これを () 政策という。

→ 改革派の憤激をかい、安藤信正が暗殺されそうになるが、未遂 = () の変 (1862年)

↓

☆この事件によって、幕府はもはや独力で日本を改革する力を失う

() 藩が幕府改革に乗り出す →幕府改革によって緊急事態を乗り切る = () 派

V S

これに対し天皇中心の新体制により外国追放の政策を強く主張したのが () 藩 = () 派

↓

幕末の日本を代表する2つの雄藩が、日本改革の方針をめぐって争う

問1 公武合体派 = () 藩は、どのようにして日本を改革しようとしていたのだろうか。

問2 尊王攘夷派 = () 藩は、どのようにして日本を改革しようとしていたのだろうか。

4 / 23 課題 選択 B 日本史 A 予習プリント その6 うら

○尊王攘夷運動の展開 (p 39、つづき)

公武合体派 (薩摩藩&会津藩) VS 尊王攘夷派 (長州藩)

☆いずれにも欠かせないのが天皇。しかし天皇はどちらにも協力的。→天皇をどちらがゲットするかで激しい争い。

1. 長州藩は「外国を今すぐ追放しましょう！」という攘夷運動で天皇のハートをゲット。
→朝廷を動かし、幕府に対し1863年5月10日に攘夷決行 (外国に攻撃をしかける) を約束させる
→当日、長州藩は攘夷決行 (下関海峡を通る外国船を無差別攻撃) cf 幕府は決行せず
2. () (1863年)
攘夷決行をし、天皇をゲットして調子に乗っている長州藩を押さえないといけない。薩摩藩は奇襲をかけ、皇居から長州藩勢力を一掃し、天皇を奪回。() をはじめとする長州藩勢力を京都から追放。
3. () (1864年)
() による池田屋事件をきっかけに、長州藩が再び京都に攻め上り、薩摩藩と激突。
→ 長州藩敗北。皇居を攻撃した長州藩は「天皇の敵」= () とされ、征伐の対象に。
→ 第一次長州征討 →長州藩、「恭順の意」を示す=ギブアップ宣言

○攘夷から倒幕へ (p 40)

(外国との紛争)

1. 薩摩藩

島津久光が、江戸幕府改革 (文久の改革) を終えた帰り道でイギリス人を殺傷 →イギリスと紛争

→ 武力衝突= () 戦争 (1963) → 薩摩藩完敗

☆「イギリスは強い！全く歯が立たない。」→ 薩摩藩は、幕府改革程度で外国に対抗することはムリ、と悟る。

→イギリスも、幕府よりも薩摩藩が有力とみて接近 → () ・ () ら下級武士の台頭

2. 長州藩

攘夷決行 (外国追放を実行) = 下関海峡を通過する外国船を無差別に砲撃

→ 外国の報復= 4カ国が連合して長州藩を攻撃 () 事件 or 下関戦争 →長州藩完敗

※「外国の強さはレベルが違う！彼らを追い払うなど、とんでもない話だった。」→攘夷はムリ、と悟る。

→高杉晋作・ () ら下級武士の台頭。高杉は最新式の軍隊 () を組織し、実権を握る。

○薩長同盟の成立 (p 40)

★ 殺し合いを続けてきた薩摩藩と長州藩の意見が、外国との紛争後、ほぼ一致。

これを仲介したのが () (土佐藩出身・海援隊) と中岡慎太郎 (陸援隊)。

↓

薩摩藩と長州藩が同盟の密約= () or () 成立 (1866年)

天皇中心の、西洋諸国を完全に見習った新体制を作る。そのためまず幕府を倒す。= ()

↓

長州藩は、ギブアップ宣言撤回。ふたたび改革を唱え、武装を開始 →幕府、再び長州征討を命令

→薩摩藩をはじめとする諸藩が動かず & 幕府軍、長州藩の奇兵隊に連戦連敗

→ 幕府の無力さが明らかに。14代将軍家茂の死を理由に長州征討を中止 →15代将軍 ()

問1 互いに殺し合ってきた薩摩藩と長州藩が、外国と戦ったあとに同盟を組むようになったのはなぜだろうか。

問2 薩長同盟が結成されてから、彼らの改革方針はどのようなようになったのだろうか。

